2015年7月12日 第二主日礼拝

説教「タネをまく人」

マタイの福音書13章1-23節

【タネをまく人】

今日の箇所で、タネとは「神さまのことば」、神さまの愛のことばです。そのタネをまいたのは神さま。神さまが、私たちを愛して、愛のことばを語ってくださいました。この礼拝の中でも、みことばを聴くうちに、神さまの語りかけに耳を傾け、その愛に触れさせていただきたいと思います。

【許されていない奥義？】

ここには、一箇所だけ難しいところが。「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません」（11）です。これだとまるで、主イエスは弟子たち以外の人々がみことばを理解することを望んでおられないように聞こえます。もちろん、そんなはずはありません。そうではなくて、これは主イエスの歎き。主はたとえを用いて、できるだけわかりやすく語ってくださっているのですが、悟ることをしない人々への痛みをともなう歎き、そして招きが表されているのです。

【幸いな目、幸いな耳】

ところが、主イエスは弟子たちに対しては、嘆いておられません。それどころか、すばらしい祝福のことばを与えておられます。「 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。」（16）主イエスを救い主として受け入れ、主のことばを、いのちを与えるすばらしい言葉として聴き、主のお顔を喜びをもって見ることができた弟子たちは、ほんとうに幸いでした。そんな幸いに私たちも与っています。主イエスに愛され、主イエスを愛する喜びをすでに味わっているのですから。

【圧倒する愛】

私たちは良い地です。私たちという良い地に神さまの愛のことばがまかれて、実を結んでいます。豊かな実を結んでいるたがいを喜び合いたいと思います。けれども、もうひとつ知るべきことがあります。それは、良い地である私たちにも、ときに道ばたや岩地やいばらが入りこむということです。

道ばたが入りこむと、神さまの愛に鈍感になってしまいます。そして神さまを愛することを忘れてしまいます。しかし、神さまは強い意志で私たちの心に語りかけ続けられます。祈りの中で私たちに直接。あるいは兄弟姉妹との交わりを通して、愛のことばを語り続けてくださいます。私たちに愛がよみがえるまで。

岩地では芽が出ても、すぐに枯れてしまいます。そのように、最初は主イエスの愛のことばを喜んでいるのだけれども、その喜びが消されてしまう。つまずいてしまうのです。私たちも人につまずいて、もう教会に行くのはやめようかと思ってしまうことがあります。でもそんなつまずきを、だれよりも痛んでおられるのは主イエス。主に愛され続けることによって、私たちに深く根が張っていき、私たちは着実に愛の人に変えられているのです。

いばらはやっかいなもの。私たちが主イエスを、思い切り愛することを妨げるもの。富、つまりお金について語るのは難しいですが、確かなことは、主を愛する方法のひとつ、それが献金だということです。レプタ２つを献げた女性の自由を私たちも持っているのです。

私たちのうちに入りこむ道ばた・岩地・いばら。けれども主の愛のことばがしみこんで私たちを耕します。主の愛のささやきは、私たちに圧倒的な喜びを与え、道ばたも岩地もいばらも、この喜びにのみ込まれていくのです。

【置かれた場所で咲きなさい】

私たちは良い地ですが、道ばたや岩地、いばらの妨げが入りこんで来るとき、喜びが失われたり、逃げ出したくなることがあります。けれども、主イエスの愛のことばであるみことばは、私たちに語られ続けています。今もこうしてみことばを聴き続ける私たちに、主イエスの愛がしみこんで、私たちはなおなお良い地へと耕されていきます。愛の言葉が結ぶのは、愛の実。その実をすでに豊かに結びはじめている私たち。そんなおたがいを喜び合いたいと思います。